

日伯新聞

Caixa No. 375
Phone. 2-3926アーヴィング・サンダーラー・ラム
本邦郵便料金全金三十六番
十四字及八面二百レーベル
外國郵便料金全金三十九マル
一通及八面二百レーベル
ラム診療 午後六時まで
ドクトル 電話 七一四六八三番

高岡專太郎

次期政府閣員顔振

ビアンナ氏は

華府駐劄大使

か

が故に、或はジユリオ氏は政界を統一する必要上此二大州政府と妥協の態度に出でてはせぬかと観測が行はれてゐる。因にコ

宋を逐一州共和黨幹部に報告す

る等である。

ローレル氏は近くボルト・アレグ

リード・アーヴィングの途にいそん

てそれを組合して金を繰り出したか

みどりといふ儲け話を聞いて

から矢も盾もたまらず切角

ログラムでこれより取立てた本

國の税金(Quinto)當時ボルトガ

ル政府がアラジルから産出する

金塊に對し其百分の五を國庫に

收めさせた

だけで十五万二千

コントスに達し年平均三千三百

七十一年「コントス」一百四十四

ミル八百二十「レース」に及ん

に新頭が現はれ何れを真とすべ

に假令サンバウロのファ

シカに就いては未だ豫測を許さ

ねが上下兩院に於て比較的有

問題については最近ばく

して産を成し得られやうといふ

問題に於ては未だ豫測を許さ

ない、之が對象として常識的に

想は陸海軍大臣を除く外は日々

出掛けたものにてつて三十回や

日本國の證明料は止むを得ず納

て全治の證明書の給付をうけ乗

船し得られるのを慣例とする

事入國を計らうとする移民取扱

本邦アラジル入國者のトラホー

ラム患者の入國を禁止して

しからぬ方法によつて一夜にし

てラホーム患者の入國を禁止して

ラホームの用意を怠つてはなら

るのに、之を萬々承知しなが

ない。

トランジエ

ラホームの報告によると此十八世

紀並に至十九世紀最初の二十年

に彼等の採掘した高は約五万

一千アローパス即ち七十八万キ

ログラムでこれより取立てた本

國の税金(Quinto)當時ボルトガ

ル博士の報告によると此十八世

紀並に至十九世紀最初の二十年

に彼等の採掘した高は約五万

一千アローパス即ち七十八万キ

ログラムでこれより取立てた本</

多數民心の赴く所抑壓成らず 覆がえされた獨裁政治

革軍の將首都リマに入り

さきにボリビアの革命があり、今又ペルーの改革見事に効を奏す。多數人心を無視した施政者の末路は、悲惨なる亡命の苦汁を喫するのみ。革命流行時代を叫ぶ以前に何ものか學ぶ事あるを見るを得る。

去る二十二日ペルー南部アレキ

ツバに起つたサンチエス・セー

ロ大佐（陸軍中佐との説あり）

を首將とする革軍は砲兵を主体

として何等の戰闘行爲もなく、

多數民衆の歓呼に附近的市街

地を占領、サンチエス大佐は單

身飛行機にて二十七日リマに乘

り込み目下新政府樹立に苦心中

である。これより先き前大統領

レギア氏は再三軍部側からの辭

職勧告に大勢を察し、終に二十

五日午前五時十一年間の未きに

亘つて獨裁政治を續けて來たそ

の位を退き、即刻家族同伴にて

バナマ方面へ亡命せんとしたが

ジエネラル・マノエル・ボン

セを總理として成つた軍閥臨時

政府はその乗船アルミランテ。

グラウ号に歸航の命令を打電し

た。これに關し紐育電報は、レ

ギア前大統領は臨時政府の命に

暴動に際し同軍の雄として活躍

し、右腕の自由を失ひ、指は三

本も無く、獨、佛、國に留學し

た當年四十二歳の猛者であると

はれた結果經濟直進のため起

つたものであると聲明してゐる

革命の成功と同時にサン・ロー

レンソ島に拘禁されてゐた去る

四月の大統領贈未遂者其他國

事犯の全部は開放された。因に

サンチエス大佐は一九二二年の

革命に際し同軍の雄として活躍

し、右腕の自由を失ひ、指は三

本も無く、獨、佛、國に留學し

た當年四十二歳の猛者であると

はれた結果經濟直進のため起

つたものであると聲明してゐる

革命の成功と同時にサン・ロー

レンソ島に拘禁されてゐた去る

四月の大統領贈未遂者其他國

事犯の全部は開放された。因に

サンチエス大佐は一九二二年の

革命に際し同軍の雄として活躍

し、右腕の自由を失ひ、指は三

本も無く、獨、佛、國に留學し

た當年四十二歳の猛者であると

はれた結果經濟直進のため起

つたものであると聲明してゐる

革命の成功と同時にサン・ロー

レンソ島に拘禁されてゐた去る

四月の大統領贈未遂者其他國

事犯の全部は開放された。因に

サンチエス大佐は一九二二年の

革命に際し同軍の雄として活躍

し、右腕の自由を失ひ、指は三

本も無く、獨、佛、國に留學し

た當年四十二歳の猛者であると

はれた結果經濟直進のため起

つたものであると聲明してゐる

革命の成功と同時にサン・ロー

レンソ島に拘禁されてゐた去る

四月の大統領贈未遂者其他國

事犯の全部は開放された。因に

サンチエス大佐は一九二二年の

革命に際し同軍の雄として活躍

し、右腕の自由を失ひ、指は三

本も無く、獨、佛、國に留學し

た當年四十二歳の猛者であると

はれた結果經濟直進のため起

つたものであると聲明してゐる

革命の成功と同時にサン・ロー

レンソ島に拘禁されてゐた去る

四月の大統領贈未遂者其他國

事犯の全部は開放された。因に

サンチエス大佐は一九二二年の

革命に際し同軍の雄として活躍

し、右腕の自由を失ひ、指は三

本も無く、獨、佛、國に留學し

た當年四十二歳の猛者であると

はれた結果經濟直進のため起

つたものであると聲明してゐる

革命の成功と同時にサン・ロー

レンソ島に拘禁されてゐた去る

四月の大統領贈未遂者其他國

事犯の全部は開放された。因に

サンチエス大佐は一九二二年の

革命に際し同軍の雄として活躍

し、右腕の自由を失ひ、指は三

本も無く、獨、佛、國に留學し

た當年四十二歳の猛者であると

はれた結果經濟直進のため起

つたものであると聲明してゐる

革命の成功と同時にサン・ロー

レンソ島に拘禁されてゐた去る

四月の大統領贈未遂者其他國

事犯の全部は開放された。因に

サンチエス大佐は一九二二年の

革命に際し同軍の雄として活躍

し、右腕の自由を失ひ、指は三

本も無く、獨、佛、國に留學し

た當年四十二歳の猛者であると

はれた結果經濟直進のため起

つたものであると聲明してゐる

革命の成功と同時にサン・ロー

レンソ島に拘禁されてゐた去る

四月の大統領贈未遂者其他國

事犯の全部は開放された。因に

サンチエス大佐は一九二二年の

革命に際し同軍の雄として活躍

し、右腕の自由を失ひ、指は三

本も無く、獨、佛、國に留學し

た當年四十二歳の猛者であると

はれた結果經濟直進のため起

つたものであると聲明してゐる

革命の成功と同時にサン・ロー

レンソ島に拘禁されてゐた去る

四月の大統領贈未遂者其他國

事犯の全部は開放された。因に

サンチエス大佐は一九二二年の

革命に際し同軍の雄として活躍

し、右腕の自由を失ひ、指は三

本も無く、獨、佛、國に留學し

た當年四十二歳の猛者であると

はれた結果經濟直進のため起

つたものであると聲明してゐる

革命の成功と同時にサン・ロー

レンソ島に拘禁されてゐた去る

四月の大統領贈未遂者其他國

事犯の全部は開放された。因に

サンチエス大佐は一九二二年の

革命に際し同軍の雄として活躍

し、右腕の自由を失ひ、指は三

本も無く、獨、佛、國に留學し

た當年四十二歳の猛者であると

はれた結果經濟直進のため起

つたものであると聲明してゐる

革命の成功と同時にサン・ロー

レンソ島に拘禁されてゐた去る

四月の大統領贈未遂者其他國

事犯の全部は開放された。因に

サンチエス大佐は一九二二年の

革命に際し同軍の雄として活躍

し、右腕の自由を失ひ、指は三

本も無く、獨、佛、國に留學し

た當年四十二歳の猛者であると

はれた結果經濟直進のため起

つたものであると聲明してゐる

革命の成功と同時にサン・ロー

レンソ島に拘禁されてゐた去る

四月の大統領贈未遂者其他國

事犯の全部は開放された。因に

サンチエス大佐は一九二二年の

革命に際し同軍の雄として活躍

し、右腕の自由を失ひ、指は三

本も無く、獨、佛、國に留學し

た當年四十二歳の猛者であると

はれた結果經濟直進のため起

つたものであると聲明してゐる

革命の成功と同時にサン・ロー

レンソ島に拘禁されてゐた去る

四月の大統領贈未遂者其他國

事犯の全部は開放された。因に

文藝欄

一
夕暮

<p>筆 隨 夕 暮</p> <p>今井 白鷗</p> <p>静に赤陽が沈んでゆく夕暮が、私は好きでならない。木綿の梢にま白な綿がしがみついて、軽くゆられてゐる。子供達がその下に集つて、棒や土塊などを投げつけでは、純白の綿を落さると、小さな努力を續けてゐるがそれは空しい焦そうにしか過ぎない。投げられた棒や土塊は、空中に微かな音響を残して、消え去つて了ふのであつた。果ては子供達も力の及ばない心を悟つたのか、薄い陽の光を浴びて何所ともなくかくれて了つた。あとはまた静寂である。</p> <p>廣い牧場の枯芝の上に、絶望的の運命を辿る人の様に、一匹の牛が臥して、うんざりと半ば開いて、餘念もなく反覆を繰返してゐる。私はふと牛の生活を思つてみた。限られた牧場の中に、自身の生活、そして自由を拘束された牛は、自らの生活に對して何んの興味を感じずには居られない。そして私は人の子として生れた感謝を、必</p>	<p>静に赤陽が沈んでゆく夕暮が、私は好きでならない。木綿の梢にま白な綿がしがみついて、軽くゆられてゐる。子供達がその下に集つて、棒や土塊などを投げつけでは、純白の綿を落さると、小さな努力を續けてゐるがそれは空しい焦そうにしか過ぎない。投げられた棒や土塊は、空中に微かな音響を残して、消え去つて了ふのであつた。果ては子供達も力の及ばない心を悟つたのか、薄い陽の光を浴びて何所ともなくかくれて了つた。あとはまた静寂である。</p> <p>廣い牧場の枯芝の上に、絶望的の運命を辿る人の様に、一匹の牛が臥して、うんざりと半ば開いて、餘念もなく反覆を繰返してゐる。私はふと牛の生活を思つてみた。限られた牧場の中に、自身の生活、そして自由を拘束された牛は、自らの生活に對して何んの興味を感じずには居られない。そして私は人の子として生れた感謝を、必</p>
<p>木 村 圭 石 選</p> <p>○ 焚 火</p> <p>○ 日の出植民地 姬 水 選</p> <p>○ 太陽植民地 白 鳴</p> <p>○ 全 セ ラ ナ</p> <p>夕暮の迫りて森の焚火哉 打とけて昔を語る焚火哉 川端に細き焚火や夜釣人</p>	<p>木 村 圭 石 選</p> <p>○ 焚 火</p> <p>○ 日の出植民地 姬 水 選</p> <p>○ 太陽植民地 白 鳴</p> <p>○ 全 セ ラ ナ</p> <p>夕暮の迫りて森の焚火哉 打とけて昔を語る焚火哉 川端に細き焚火や夜釣人</p>
<p>○ ヴ ェ ン セ ス ラ ウ 貞 選</p> <p>斧入れる山を控へて焚火哉 乞食の焚火するらし枯木立 一家皆夕餉すみたるたき火哉</p>	<p>○ ヴ ェ ン セ ス ラ ウ 貞 選</p> <p>斧入れる山を控へて焚火哉 乞食の焚火するらし枯木立 一家皆夕餉すみたるたき火哉</p>
<p>ア リ ア ン サ 文 秀</p> <p>くべ添えて又話し出す焚火哉</p>	<p>ア リ ア ン サ 文 秀</p> <p>くべ添えて又話し出す焚火哉</p>

アリヤは
買はぬが

お買物を遊ば
てお求めになる
ある一番確實な
方の好運を託し
本店並に左記連
絡先

RUA DIREITA 2-B
Tel. 2-4607 — São Paulo

聖市チレイ

奥様

バヴァン・タヌ
をお訪ね下さい
當店はお小兒
店でいつも多種
又お値段も精

1

特日本
安
保證と
開業以
を致し各
つて各
ましたた
居り外

Casas Gonçalves e Luso Brasileira
Gabriel Gonçalves & Cia.

The image shows a horizontal newspaper clipping. On the left, there's an advertisement for 'Armour' with a list of addresses and phone numbers. The main headline in the center reads '馬鹿?' (Idiot?). To the right, there's another advertisement for 'COCITO IRMAO' with a list of addresses and phone numbers. A small illustration of a man in a hat is visible on the far left.

An advertisement for the Armour of Brasil Corporation. The text on the left reads: "Armour of Brasil Corporation FRIGORIFICO - S. PAULO Alameda Cleveland, 34-A Villa Anastacio (Lapa) CAIXA POSTAL. "1" - S. PAULO". To the right is a black and white photograph of a steam iron with its cord and a separate steam generator or boiler unit.

品、材料一切は
信用ある當店の
輸入品に限りま
「ヘリアル」印乾板
「ツク」會社代理
修正並引延
出來申込次第進
及具其他金
陶磁器、
ベルニス、
金物類、其
用具建築
日本人諸君
手紙の翻訳文
宜しうござい
舊ソロカバナ
聖市マウア街
ルモー
(Adubo Arnow
十鉢（一噸に付
骨燐含有量二八
十鉢（一噸に付
(Sangue Secco
鉢（一噸に付
(Farinha de O
十鉢（一噸に付

物一切
商會 呈
硝子器、
其他農業
用具一切
に大割引
は日本文で
ます

子孫の爲めに

美田を買へ!!!

暗夜の一燈迷ふ
勿れ道未だ遠し

維新の巨頭南州翁は子孫の爲め美田を買わず。然り翁にして通用せらる。浪花節の文句で、國危して忠臣出で家貧にして孝子出づ。然り不肖等は後者を御勧めも度い今や財界の不況は世界的にして我日本移民は僅かに伯國を除いては他に無いのである。然も當聖州内の沃野は既に僅少にして折角の大望も何れに投資せらるやに悩む人も多からうと思ふ。不肖等多年の経験、現在では變線鐵道工事の傍ら土地物色の折柄計らずも當バアルバライゾに於て最好適地を見付け、子孫の爲め美田を買ふ可く御勧めする。當所はアラサツーバを離る事六十三キロメートルにして近々郡制を敷かる可く、既に市街地は恐ろしい發展振を示して居る。更に現工事は遅くも八月末迄には完成の豫定で期して將來の發展美田たるを失わず。更に地主共現況に鑑み最も容易なる方法に商談出來居れば此期を失して再び機會は無いのである。

噴火口上に在る吾等の開拓者

(中) 帝國領事館の消化不良症

耕地労働賃金問題
母國に於ても近來小田、松永某の遊宣傳に依り耕地の事情を詳細に研究せんとする傾向がある。國境労働局に對する聖州労働局長の意見の談片にも筆者は其感を同じくするもので、現在の耕地就勤は之を工場労動及び他の契約労働と同様に解釋する事は可能である。自國の農業は獨立農として其立ちはじ得る可能性である。

耕作の機會が、順次

耕地労働者(コロノ)の異動の速

き事は、其待遇が悪いから勤

くと云ふでなく、伯國農業は獨

立農として其立ちはじ得る可

能性である。

耕作の機會が、順次

耕地労働者(コロノ)の異動の速

き事は、其待遇が悪いから勤

くと云ふでなく、

事實は遂に曲げ得ず

在留民は一齊に責任を糾弾すべし

見よ！この事實を！

悲觀電報の打電に對し、その調査不充分、根底の薄弱、獨

断溝越の行爲を指摘して中島總領事、濱口領事の責任を問

うた本紙の記事に對し、彼等は飽く迄もその事實を否定し

反つて逆宣傳の舉に出でるのみでなく、不見識にもお先

棒をつとめて招撃呼ばりをするものあり、依て今や絶對に

難船を弄せしめ調査の結果を茲に發表する。

即ち本問題は日本帝國の國策を不可からざる事實で、彼らの辯

誤らしめる同時に、後繼者の明する情報電報に多分の主觀を

中絶に依つて在留同胞十二萬の交へたものである事が判明した

发展幸福を阻止するものと本社に打電

外務省に發した悲觀電報は動か官事を

七日夕の報告に接した、それ

に依れば溝越なる出先官憲の

該電報は外務省を經て内地の各

新聞紙上に發表され渡伯希望者

に大いなる衝動を與へたもので

あるが、今その一つとして最も

速く在東京の通信員に打電

し凡ゆる犠牲を拂つて直接調査の歩を進めたが、漸く昨廿

に依れば溝越なる出先官憲の

該電報は動か官事をこゝに轉載する。

があり、新米同胞は次の通り二

十九日上陸する。

家族九一家族五八一人

夫婦九人

單獨三人

自費四八人

呼寄六人

南拓七家族四五人

組合六九五人

合計三人

アリアンサの

上塚氏一行

アリアンサ會

臨時總會

去る九日臨時總會を開催し左

通り役員選舉があつた。

会長吉川徳彌

副會長高橋善導

農事講習會

アリアンサの

農事講習會が開催さ

る。二十一日から三日間第二

アリアンサの

農事講習會が開催さ

る。

リオ便り

農事講習會

アリアンサの

農事講習會が開催さ

る。

リオ便り

農事講習會が開催さ

る。

リオ便り

農事講習會が開催さ

る。

リオ便り

農事講習會が開催さ

る。

リオ便り

農事講習會が開催さ

る。

替為五鉢臺

アマゾン指して

上塚氏一行

邦貨圓ニ付五二三〇

市費、栗谷金六氏らと共に一日

筆田、篠田の諸氏は二十九日聖

の船でアマゾン觀察の旅に上る

至難に屬してゐる關係上其の成

績に就いては痛心に堪へなかつたのであるが、貴紙の主張に同感せられて管内在留同胞の方方

は「吾等の領事館を助けよ」と

正金銀行被難里送金換算率

計り進んで調査の難事業を擔當して下さつた。費用少くてやる

にかつて來ました。そして費用

定期

援助で此の至難の事業をやり遂げ得つてゐることは、此の難事業に心配しきつてゐた私の小業の私事であります。

今後は落ちつて會員相互の福

利増進に努力するものと期待さ

れてゐる。

吾等の領事館

副領事成瀬康

組合調査には、義に實に官

の共同活動を高揚されたが、

自分の管内は新來者多く且つ他

方面に見る様な日本人會や青年

ふと一向に差支なく、ひたすら

自分で仕事に精進してゐるのは

自分等の仕事に精進してゐるのは

自分等の仕事に精進してゐるのは

自分等の仕事に精進してゐるのは

自分等の仕事に精進してゐるのは

自分等の仕事に精進してゐるのは

自分等の仕事に精進してゐるのは

自分等の仕事に精進してゐるのは

相場ご市況

八月廿八日現在

相場ご市況

示

地邦新聞讀書伯日本邦

移動の中止又は制限を加へ

たるが如き記事掲載せられ

る現物無之に付一般に誤解な

き様被致度し

昭和五年八月二十七日

在サンパウロ

右告示す

アマゾン指して

上塚氏一行

邦貨圓ニ付五二三〇

市費、栗谷金六氏らと共に一日

筆田、篠田の諸氏は二十九日聖

の船でアマゾン觀察の旅に上る

至難に屬してゐる關係上其の成

績に就いては痛心に堪へなかつたのであるが、貴紙の主張に同感せられて管内在留同胞の方方

は「吾等の領事館を助けよ」と

正金銀行被難里送金換算率

計り進んで調査の難事業を擔當して下さつた。費用少くてやる

にかつて來ました。そして費用

定期

援助で此の至難の事業をやり遂げ得つてゐることは、此の難事業に心配しきつてゐた私の小業の私事であります。

今後は落ちつて會員相互の福

利増進に努力するものと期待さ

れてゐる。

吾等の領事館

副領事成瀬康

組合調査には、義に實に官

の共同活動を高揚されたが、

自分の管内は新來者多く且つ他

告を毎週切り抜いてお持ちにな

る事が大流行となつてあります

といふ譯は「買物ニュース」

として單にその時誤りでなくあ

る期間有利な案内役を勤めただ

けの資格を持つてあるからです

る事が大流行となつてあります

といふ譯をあげた。

アマゾン指して

上塚氏一行

邦貨圓ニ付五二三〇

市費、栗谷金六氏らと共に一日

筆田、篠田の諸氏は二十九日聖

の船でアマゾン觀察の旅に上る

至難に屬してゐる關係上其の成

績に就いては痛心に堪へなかつたのであるが、貴紙の主張に同感せられて管内在留同胞の方方

NIPPAK SHIMBUN

Jornal Japonez de maior circulação no Brasil

Anno XVI

São Paulo — Quinta-feira, 28 de Agosto de 1930

Num. 691

IPPAK SHIMBUN

Propriedade e direção de:
SACK MIURA
Editor da pagina brasileira José Solé
redação, Administração e Oficinas
Rua da Liberdade, 146
Caixa Postal, 375
Telephone, 2-9262
Endereço Telegráfico "NIPPAK"
SÃO PAULO - BRASIL

ASSIGNATURAS
Para o Brasil:
ano 30000
semestre 16000
mês avulso 500
Para o Exterior:
ano 60000

ANNUNCIOS
Temos à disposição dos interessados
a tabela completa de preços para an-
úncios nesta folha. Telephone 2-3926

DIÇÃO DE 8 PAGINAS

cepção a bordo do rio de Janeiro Maru"

a capital da Republica

foi uma festa magnifica, um ver-
eiro acontecimento mundano
s factos sociaes do Rio de Ja-
neiro, a recepção dada quinta-feira
sauda, pela Osaka Shosen Kai-
a a bordo do seu novo navio
tor "Rio de Janeiro", que ora
iliza a sua primeira viagem a
merica do Sul, depois de lançado
mar nos estaleiros japoneses.

Dando ao seu novo navio o nome
da nossa capital, a grande
companhia de navegação nipponi-
desejou manifestar os laços de
empatia e reciproca estima que
tem, cada vez mais, o grande
rio extremo oriental ao Brasil,
ravés de um intercambio mate-
rial e sentimental que o tempo
tem feito senão aumentar
ispiciamente.

E foi a apresentação do "Rio de
Janeiro Maru" á sociedade e á
população da capital que lhe deu
nome, que levou quinta-feira ao
seu bordo o que a sociedade ca-
ca tem de mais selecto e mais
alto, numa festa de grande bri-
lantismo e de grande significação
o estreitamento das relações en-
tre o Japão e o Brasil.

O abuso do alcool

Tem-se em projecto, aqui no
Brasil, a Lei Seca. Seria esse
um dos projectos que viria a be-
iciar muitos lares arruinados e
cerbros perturbados pelo
alcool. Em nossa terra é enorme
o numero de pessoas invalidas
 pelo abuso do alcool ou cachaça,
o numero de viciados é sem-
onta.

No Rio de Janeiro consomem-se
diariamente cerca de 250.000 litros
de diferentes bebidas, num valor
aproximado a réis 140.000, ou
seja por anno 91.250.000 litros,
no valor de 51.100.000\$00!

E' uma fortuna colossal gasta
em abusos.

Os numeros acima foram tira-
dos das mais recentes estatísticas
oficiais. Nelles, porém, não figu-
ram a fabricação e venda clau-
destinas de muitas qualidades de
bebidas, que os viciados ingerem
diariamente nos bars e tenanças
abertas em todos os pontos da
cidade.

O viciado faz da pinga e ou-
tras bebidas alcoolicas medica-
mento para a cura de muitas
molestias.

Bebe cachaça para refrescar os
esqueritos, toma um trago para
evitar constipação, a gripe, etc.

Refrear o uso do alcool é, por-
tanto, salvar o país desse ayoso
que se está abrindo deante de
seus olhos e para o qual cami-
nhamos serenos conscientes.

Louças, Artigos Japonezes e
Nacionais

K. NISHITANI
IMPORTADOR E
EXPORTADOR

R. Conceição, 88
End. Teleg. NISHITANI
Caixa do Correio, 1134
RIO DE JANEIRO

Notícias e telegrammas do Japão

(Serviço especial do NIPPAK SHIMBUN)

AVIAÇÃO

Raid Pariz-Tokio

O aviador japonês Azuma, em
proseguimento do reide já encen-
tado Pariz-Tokio, levantou vôo as
5 horas da manhã do dia 21 do
corrente, no aeródromo de Tem-
pelhof com destino a Koenigsberg.

De Moscou chegam telegrammas
anunciando que o intrepido aviador
japonês atterrou naquela ci-
dade, em boa disposição.

O vôo Japão-Estados Unidos transferido

TOKIO, 27 — O aviador Harold
Bromley que tentará o vôo Japão
Tacoma ou Seattle, transferiu es-
sa prova para quinta-feira vindou-
ra, devido ao violento tufo que
está varrendo toda a zona a ser
atravessada.

O Japão e o tratado Naval de Londres

TOKIO, 23 — Proseguem anima-
dos os trabalhos da comissão
do Conselho Privado especialmen-
te incumbida do estudo do Tratado
Naval de Londres, com vistas á
sua ratificação.

Ainda hoje, os membros da
Comissão ouviram, por espaço
de cerca de duas horas, pormeno-
radas exposições sobre o assunto
feitas pelo chefe do governo,
sr. Hamaguchi e o ministro da Ma-
rinha, almirante Takarabe.

Um estudo sobre o Brasil

Os métodos dos americanos e dos japoneses instalados na Amazonia

PARIS, 22 — Proseguindo o estudo que há tempos vem
fazendo sobre o Brasil, a "Journée Industrielle" demonstra no
editorial de hoje a diferença que existe entre os métodos
dos americanos e dos japoneses instalados na Amazonia, os
primeiros empregando processos de exploração, recorrendo á
mão de obra indígena e praticando a política dos salários elevados e os segundos aplicando um sistema de colonização
e importando a sua própria mão de obra.

"As duas iniciativas, acrescenta o jornal, têm um caracte-
r commun, são semelhantes, embora funcionem em planos
diferentes".

Alludindo ás possibilidades de expansão económica da
região amazônica, diz o jornal que o mais necessário e mais
urgente é que os capitais venham sem receio ao encontro
dos negócios bem estudados; que esperem com paciencia e
que percam a sede de especulação a que os valores colo-
niais os habituaram, infelizmente.

"Não é á Bolsa — conclui — que compete valorizar a
produção das matérias primas que, tendo em consideração
as variações dos mercados, representam ouro a alto título
quando se trata de rendimentos como os que nos preocu-
param agora. Como quer que seja, é preciso pensar que, a
despeito das circunstâncias actualmente desfavoráveis, tempo
virá em que a região Norte do Brasil será um grande mer-
cado exportador e consumidor".

A situação favorável do Café brasileiro no Japão

O «Correio da Manhã», do Rio,
diz num de seus topicos, sobre o
café brasileiro no Japão:

«Conhecem-se já algumas infor-
mações muito favoráveis a respeito
da situação do café brasileiro no
Japão. Até agora, o nosso pro-
duto era quasi inteiramente des-
conhecido na importante nação
asiática. Realizou-se ultimamente
em Kobe uma exposição de pro-
ductos brasileiros, patrocinada pela
Associação Commercial daquela
cidade nipônica e pelo consul do
Brasil. Esse primeiro ensaio foi de
exito completo. A maioria dos ar-
tigos expostos constituíram novida-
de para os japoneses. O café, sob-
retudo, era-lhes desconhecido e
ignorada a maneira de preparalo.
Distribuiram-se a título de propa-
ganda, café em chicaras e no mes-
mo instante numerosos visitantes
da exposição adquiriram pacotes
de café em pó.

Efectuou-se uma exposição se-
melhante em Osaka, devendo real-
izar-se outras feiras do mesmo
gênero em varias cidades japo-
nesas.

Homenagem ao Príncipe Takamatsu em Berlim

O príncipe Takamatsu e a prin-
ceza Kikuko, visitaram o museu
annexo ao ministerio do Trabalho
e, em seguida, compareceram ao
chá em sua honra, oferecido pelo
titular da pasta, sr. Stegerwald.

Viam-se entre os convivas varios
membros das representações
diplomaticas e consulares naquella
capital e inúmeras figuras de des-
taque no mundo oficial.

Ss. Aa. seguiram no dia 22 do
corrente para Stockolmo.

DR. S. TAKAOKA

MEDICO - OPERADOR

Rua Fagundes, 8
Tel. 7-4683

Exportação de laranjas brasileiras

A bordo do vapor »Afrique Star»
seguiu, na semana passada, para
Inglaterra, 27.000 caixas contendo
laranjas paulistas, sendo esse o
maior carregamento do anno.

Peço vapor »Villagarcia» che-
garam em Hamburgo, 1.000 caixas
com laranjas de umbigo, e
peço vapor »Baden» mais 1.100
caixas.

Exposição Agrícola

A 7 de Setembro proximo, será
inaugurada, nesta capital, a Ex-
posição Agrícola organizada pela
Secretaria da Agricultura.

O sr. dr. Fernando Costa, se-
cretario da Agricultura, solicitou
providencias do sr. secretario da
Viação junto ás estradas de ferro
em tráfego no territorio do Esta-
do, afim de que seja concedida
uma redução de 50 por cento
nas passagens de todas as pes-
soas que desejarem vir do inter-
ior para São Paulo, afim de as-
sistir aquella exposição.

S. PAULO

O COMÉRCIO NIPPO-BRASILEIRO

«O Brasil poderá ter na industria japoneza uma
grande consumidora das suas matérias primas»,
diz um grande comerciante japonês.
palestra com o sr. Tozo Niwa, de Yokohama
sobre o comércio Brasil-Japão

Durante a estadia do "Rio de Janeiro Maru" no porto do Rio,
um reporter esteve com um comerciante japonês que há muitos an-
nos, mantém relações comerciais com o nosso paiz, e que, depois
de alguns meses de permanência entre nós em viagem do obser-
vações e estudos, regressa ao Japão por aquele vapor, para que
disse algo acerca do resultado da sua longa permanencia neste

O Sr. Tozo Niwa, que é abastado comerciante em Yoko-
hama, o principal entreposto comercial do Extremo Oriente, desde
muitos anos vem mantendo estreitas relações comerciais com a
praza do Rio de Janeiro, procurando incentivar o intercâmbio
commercial nippo-brasileiro através do seu estabelecimento de importa-
ção e exportação.

— Tenho feito tudo o que é possível — começou o Sr. Tozo Niwa
quando o interrogamos, — para aumentar as quotas de importação
e exportação entre o meu paiz de origem e este Brasil a quem já
me habitei a querer e amar como a uma segunda pátria, tantos
só os amigos que aqui possuo e as agradáveis recordações que
me prendem ao Rio desde a primeira vez que aqui estive por
ocasião do Centenario, em 1922.

Desde essa data, logo que pude conhecer algo das riquezas na-
turais deste bello paiz, convenci-me de que o Japão industrial teria
uma arca inexgotável para se reabastecer das matérias primas
necessárias ás suas variadas manufaturas, e que o Brasil teria em
meu paiz um mercado bastante favorável para a aquisição de pro-
ductos manufacturados de toda a especie, tão bons em qualidade
e em preço como aos de qualquer outra procedencia.

Situado num territorio exiguo, contando com uma densidade de
população cada vez mais premente, paiz manufactureiro sem mate-
ria prima, o Japão é obrigado a importar tudo, desde o arroz com
que se alimenta, até a borracha com que fabrica os seus pneuma-
ticos. Nessas condições, abstraiendo a distancia, que pode ser su-
perada com o barateamento da produção e do transporte, uma vez
que se estabeleça uma corrente commercial compensadora, o Brasil
poderia ter no meu paiz um formidavel mercado consumidor de ca-
fé, matte, arroz, borracha, madeiras, sementes oleaginosas, manga-
nez, minérios de cobre, couros, chifres, ossos, pelles, fertilizantes,
algodão, essencias, lá, ceras, vegetais, etc., productos estes dos quais
nos abastecemos actualmente na Coreia, China, Malaya, Java,
Bordéa, Australia, India e África do Sul, mediante algumas conces-
sões em favor da nossa exportação.

— É considerável a importação de productos brasileiros pelo Japão?

— Bastante, respondeu-nos o Sr. Niwa, mas não representa nem
a milésima parte do que poderia ser, se outras fossem as condi-
ções de intercâmbio. Importamos do Brasil algum café, que usamos
no Japão em mistura com o de Java, que custa cerca de 40%
mais barato; cristais da rocha, cuja importação cresce annualmente;
couros brasileiros que compramos no Uruguay como sendo daquella
proveniencia, quando o são de Matto Grosso, Goyaz e outros Esta-
dos do Sul, conforme acabo de averiguar; algodão brasileiro com-
prado em mercados estrangeiros, além de outros productos de grande
de emprego nas industrias manufactureiras do Japão.

Mas tudo isso não representa nada comparado com as possibi-
lidades commerciais entre os dous paizes. O Brasil precisava man-
dar estudar demoradamente os mercados importadores japoneses
afim de se inteirar das vantagens que representa um intercâmbio
forte com o meu paiz, uma vez que se fizessem concessões recipro-
cas dentro do justo e do normal.

As companhias japonezas de navegação que fazem viagens en-
tre a America do Sul e o Extremo Oriente tem procurado favore-
cer na medida do possível esse auspicioso intercâmbio, quer redu-
zindo os fretes, quer fazendo propaganda dos productos dos dous
paizes, com amplo do governo japonês, que as subvenciona.

O governo e o povo do meu paiz têm uma grande sympathy e
um grande carinho pelo Brasil, tal a hospitalidade e o espírito de
fraternidade com que os brasileiros acolhem os meus patrícios que
para aqui emigraram, e nada mais favorável a um forte intercâmbio
commercial do que essa estima alicerçada na sinceridade e na amizade
de dous povos.

Estou procurando viciar os meus patrícios de Yokohama e Tokio,
disse-nos sorrindo o Sr. Niwa, no uso do café brasileiro. Para
isto, todas as vezes que aqui venho, levo para o Japão muitas sacas
de café que eu mesmo torro, mío e ensino os meus amigos a preparar.

— E os resultados? perguntamos.

— Os melhores possíveis. Posso garantir que o terreno está mais
ou menos preparado, e basta uma boa sementeira para a causa pegar.

Agora mesmo, prosseguiu, levo comigo inúmeras amostras de productos
brasileiros de todo o gênero desde as madeiras até o... paraty, do qual levo algumas caixas para presentear os amigos e
fazer propaganda da bebida nacional brasileira. No Japão nós temos o saké, aguardente feita de arroz mas a escassez de materia-
prima torna essa bebida bastante cara, de modo que o paraty per-
tem ter ali um consumo bem apreciável.

Encontrei infortunadamente o Brasil numa época de crise, mas
ainda assim pude fazer alguma causa em prol do intercâmbio
commercial nippo-brasileiro, graças aos grandes amigos com os quais
conta aqui e em S. Paulo.

Levo como já disse, inúmeras amostras de productos brasileiros,
e com as quais procuro interessar os productores do meu paiz, e
estou certo, certíssimo, de que um entendimento commercial di-
recto entre os governos brasileiro e japonês produziria para ambos
os paizes um resultado auspicioso. O Brasil pôde nos fornecer tudo,
e o baixo preço da mão de obra japoneza, aliada com as facilida-
des de transporte favorecidas pelas emprezas de navegação, tornam
os nossos productos capazes de concorrer em qualidade e preço
com as manufaturas europeias e norte-americanas.

Deixo o Brasil com enormes saudades, palavra cujo sentido
aprendi a compreender, e volto para o meu paiz animado das
maiores esperanças de que o comércio nippo-brasileiro, será den-
tro em breve tão forte quanto os elos de sympathy e estima que
já prendem os dous grandes povos da actualidade.

SPORTS

FUTEBOL

Os classicos rivais do futebol
paulista encontraram-se domingo
numa forte pugna em que saiu
victorioso o Palestra Itália pela
contagem de 4 tentos e o velho
Corinthians não conseguiu nem
uma vez, vazar a méta inimiga.

O resultado dos principaes jogos de domingo, foram:

Juventus	3

</tbl